



いちやま とうし
市山環境保全会 (島根県江津市)

- 本地域は、島根県西部の江津市、江の川上流部の山間に位置し、5自治会が1つの組織として活動を実施。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域内の水路の草刈り等を非農業者を含め地域ぐるみで実施し、棚田も復元。
- 生物調査や古代米栽培などの子供たちの体験学習も実施し、地域の環境保全への意識が向上するとともに、ふゆみずたんぼなど環境に優しい農業を実践する農家が現れるなど新たな農業が展開。

【地区概要】

- ・取組面積63ha (田53ha、畑10ha)
- ・資源量 開水路10.1km、農道7.5km、ため池4箇所
- ・主な構成員
自治会、婦人会、青年会、消防団等
- ・交付金 約4百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- ほ場整備から約40年が経過し、農業用施設が老朽化するとともに、農業者の高齢化や後継者不足により、農業水利施設等の維持管理の負担が増大。
- イノシシ、猿などの鳥獣による作物被害に加え、農地・畦畔法面も荒らされる被害も年々増加。生活環境にも影響。
- このため、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策を活用し、地域ぐるみで農地・水路等の保安全管理を開始。



市山の施設補修箇所

取組内容

- 農地・水路等の保安全管理に加え、20年以上放置された棚田9枚とため池を2年がかりで「やぶさめの棚田」、「やぶさめのため池」※として復元。
- 生物調査や棚田を活用した古代米栽培など子どもたちの体験学習を実施し、地域の環境保全への意識が向上。



復旧した「やぶさめの棚田」現在の様子

※ ため池百選(平成22年3月25日選定)

取組の効果

- 小学5年生が体験学習で栽培した古代米を町内の5公民館のイベントに使用。地域活動の輪が集落から町内に拡大。



公民館が発行している古代米情報紙

- ふゆみずたんぼを6haで実施し、環境に優しい農業を実施する農家が現れるなど新たな農業が展開。
- 地域住民に環境にやさしい農業への関心が高まり、農地周りの草刈りなどの保安全管理活動に非農業者の参加が増加。

〔 91人(H26年度)⇒312人(H27年度) 〕



ひとやま とのしょうちょう
肥土山を守る会 (香川県土庄町)

- 小豆島中央部にある水田地帯で、農業に端を発する伝統文化を継承している地域でもある。しかしながら、農業者の高齢化や後継者不足により農業用施設の維持管理に苦慮していた。
- 本制度により、非農業者も含めた維持管理の体制を構築。伝統文化の継承の場となるため池や畦道の日常の管理を実施。
- 非農業者を含めた体制の構築により、維持管理が充実するとともに、伝統文化の継承の活動を通じて、コミュニティ機能の向上等、地域の活性化の一翼を担っている。

【地区概要】

- ・取組面積24ha (田23ha、畑1ha)
- ・資源量
開水路12.9km、パイプライン2.5km、農道0.2km、ため池3箇所
- ・主な構成員
農業者、土地改良区、自治会、老人会、青年会
- ・交付金 約1百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、小豆島中央部の水田地帯で、水源であるため池「蛙子池」が1686年に完成したことを機に始まった「肥土山農村歌舞伎」が現在も行われるなど、農業に端を発する伝統文化を継承している。
- 農業者の高齢化や後継者不足により、ため池や水路の草刈りなどの農業用施設の維持管理に苦慮していた。



水源であるとともに、約1000本の桜が植えられ、春には花見客で賑わう「蛙子池」



国有形民俗文化財に指定された「肥土山農村歌舞伎」の舞台

取組内容

- 平成19年度の活動組織設立時に、これまで維持管理に関わっていなかった非農業者(30~40歳代の青年会)も加わり、ため池等の草刈を実施。
- 本地域では、江戸時代から、松明をかざしながら田植え後の棚田の間を練り歩き、稲の虫除けと豊作を願う伝統行事「虫送り」が行われており、活動組織は伝統行事の場ともなる畦道の日常の管理を行うとともに、虫送りの運営にもボランティアで参加している。



町無形民俗文化財「虫送り」

(第10回かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト 優秀賞受賞作品)

取組の成果

- 活動組織に青年会が加わったことにより、ため池等の草刈の体制が強化され、以前より維持管理できる範囲が広がるとともに、きめ細やかな作業が可能となった。また、共同活動に関する非農業者の意識醸成が図られた。

【以前:約30人 ⇒ 現在:約50人】

- 伝統文化の継承活動を通じて、コミュニティ機能が向上するとともに、都市住民の関心も集め、地域の活性化の一翼を担っている。



ため池の草刈り



中山間地域等直接支払制度と連携した樹園地帯における取組

あさだつあげ

せいよし

朝立揚環境保全会（愛媛県西予市）

- 本地区は、急傾斜のみかんの段々畑で法面や農道の劣化が進みやすく、水利施設も老朽化が進んでいることから、これら施設の更なる保全管理の充実を図るため、平成12年から取組を行っていた中山間地域等直接支払の集落協定の役員が地域に呼びかけ、多面的機能支払交付金の取り組みが開始された。
- 本交付金では、地域自らが行う農道の維持管理、揚水機場やスプリンクラー等の末端水利施設の保全管理を、中山間直接支払では、共同活動では対応困難な規模の大きな舗装・法面補修や鳥獣害防護柵の設置を実施している。

【地区概要】

- ・取組面積 47ha（畑47ha）
- ・資源量
開水路1.3km、パイプライン13.0km、農道13.6km
- ・主な構成員
農業者、自治会
- ・交付金 約1.4百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

本地区の概要

- 標高30～300mに位置し、1/4程度の急傾斜地に石垣を積んで造成された幅2m程度の、みかんの段々畑からなる。
- 関係農家による農道組合及び水利組合が集落と共同で施設を管理しているが、急傾斜で降雨量も多く、農道や石垣の劣化が進みやすく、施設の補修や維持管理に苦慮していた。
- 施設の保全活動の更なる充実を図るため、中山間直接支払の集落協定の役員が呼びかけ、本交付金にも取り組むこととなった。



中山間直接支払と連携した保全活動等の実施

- 本交付金の対象農用地の全域が、中山間地域等直接支払の対象農用地となっており、構成員も重複。
- 本交付金では、地域が自ら対応可能な日常作業を実施し、中山間地域等直接支払では、共同活動では対応が困難な規模の大きな施設の補修や、鳥獣害防護柵の設置等の外注工事を実施することで、営農の継続に必要な施設の保全管理を実施。



農道の点検、草刈り、側溝清掃



揚水施設周辺の草刈り、給水栓への凍結防止の保温材投入



営農組合と連携した地域資源保全の取組

かさぎ ふくまき

笠木福万来集落保全会 (旧 笠木の集落を守る会) (鳥取県日南町)

にちなんちよう

- 当地域は鳥取県の南西端にあり、島根・広島・岡山の3県と県境を接する日南町のほぼ中央に位置する標高500mの冷涼な気候に恵まれた山間農業地域である。また、古くから良質米産地として知られ、町内に2社存在していた造り酒屋の発祥の地でもある。さらに福万来地区には、ヒメボタルとゲンジボタルが同時に同じ場所で観ることができる全国的にも貴重な場所があり、星空と雪解けの清水、秋には雲海に沈む集落と自然環境豊かな地域である。
- 平成19年度から、営農組織が中心となり取組を開始し、農業資源の維持、保全に取り組んでいる。
- 平成27年に笠木営農組合を非営利に徹した一般社団法人として法人化。

【地区概要】

- ・取組面積 123ha (田121ha、畑2ha)
- ・資源量 開水路 32.3km、農道 15.5km
ため池 1箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、農業法人、自治会、老人クラブ
- ・交付金 約11百万円(H29)
 - 農地維持支払
 - 資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- ほ場整備を進める過程で『笠木は一つ』の機運が醸成できていた。このことが以後の集落営農をはじめ集落組織発展の根幹となっている。
- 自治機能の笠木自治会と産業部門の笠木営農組合が協調して集落活動を行っていた。
- ほ場整備事業が完了して15年が経過、農用地はもとより、水路、農道の補修の必要箇所が目立ち始めていたが、コンクリート製品の使用で個人対応での補修が出来かねる状態であった。
- 鳥獣害、特にイノシシによる被害が日常的に多発し、対応に苦慮していた。



水路の傷み



イノシシによる被害(冬期)

取組内容

- 外来植物(特にセイタカアワダチソウ)の植勢拡大の抑制と撲滅を目指して、刈り取り・抜き取りを行い、地域内での意識付けを図った。また、外来植物植生団地部に対して、グリホサート剤散布による駆除を実施。畦畔法面では、センチピートグラスによるグランドカバーやブームスプレーヤーによる成長抑制剤散布での草刈回数の軽減、除草剤の散布によるアシカキの駆除等薬剤処理の試行・実証も進めている。
- 地域内の建設会社に勤務する農業者の技術を活用して、畦畔の崩れや水路の付け替えなどを直営施工で実施。
- 将来を担う若者や後継者の家族を交えた交流活動として、秋の収穫祭を開催。4人で餅をつきあう伝統的な餅つきや竹馬などの昔の遊びで交流を深化。



外来植物の駆除作業



直営施工(水路の補修)

取組の効果

- 活動を営農組合に集中することで地域内の求心力が高まった。
- 広域化することにより予算の重点配分が可能となり、災害復旧の対象とならない小規模災害への対応が可能となった。
- 営農組合理事会で全体の方向性が出せるので、水利の悪いほ場が小作に出た場合等、優先的に修理して小作者を募ることが出来る。
- ホタル生息地の手入れや環境美化活動(ゴミ拾い)等に参集する人数が増えた。
- 出身者が帰郷する機会が増えた。



秋の収穫祭



環境美化活動



畦畔管理を兼ねた「シバザクラの里」で集落活性化

のみ ひがしひろしまし
乃美エコクラブ（広島県東広島市）

- 活動地域である東広島市豊栄町乃美地区は、人口の約34%が65歳以上で、農作業に携わる者も高齢化により畦の草刈もままならない状態になっていた。
- 当組織の代表を中心として、(独)農研機構の難防除雑草の防除技術と広島県立農業技術センターの防草シートにシバザクラを組み合わせる技術を融合させ、草刈作業の不要化を試みた。特に平成19年度には、高さが16mもの法面へシバザクラを植栽し、法面の省力管理と景観形成を図った。
- 育苗・植栽技術講習会を開催し、当地域の活性化と他地域への技術の普及を進めている。
- 様々な団体と協働・連携し、田んぼの生き物調査や、地域に多数存在するため池を活用した新しいイベントの開催、特産物の開発等を計画しており、さらなる集落活性化に向け前進している。

【地区概要】

- ・取組面積 65ha
(田60ha、畑2ha、草地2ha)
- ・資源量 開水路24.3km、農道14.6km、
ため池30箇所
- ・主な構成員
農業者、県立高校、自治協議会、
シバザクラ愛好会 等
- ・交付金 約5百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

防草シートを使った畦の 管理作業の負担軽減



- マルチ被覆とシバザクラを組み合わせた大規模畦畔管理技術と、難防除雑草を根まで枯らす技術をあわせた技術をもって施工。定植したシバザクラが法面全面を覆うまで約3年かかるが、覆い茂った後は法面を草刈する必要がなくなる。また、法面を被覆することにより用水路への土砂の流入が少なくなり、用水路管理の省力化が図れる。

シバザクラ植栽面積1.6ha
(うちH19年度の農地・水・環境保
全向上対策で施工14a)



被覆植物(シバザクラ)による 地域の活性化



- シバザクラで敷き詰められた法面は、防草や景観美化の効果に加え、稲の虫害を抑制され、米の品質向上と減農薬栽培に繋がることが期待される。
- 植栽したシバザクラの花が満開となる4月頃に、美しく咲き誇る景観を目指して、地域外から見学に訪れる人が増加し、開花期(約30日間)には、延べ1万人以上が来訪することも。
- “シバザクラの里”として広くPRするとともに、シバザクラの品種見本園の開設や栽培技術相談も受け付けている。



活動を通じて 更に次のステップへ



- 住民自治協議会(自治振興組織)や農業法人と協働し、ため池の汚泥・底樋の調査や草刈を実施。
- この他、多様な主体が参画して、地域活性化や環境保全のための様々なイベントを開催している。

- ・ 自主施工による水路の補修等
- ・ 田んぼの生き物調査、水質調査
- ・ 湿田に開渠排水路を設け水田貯留機能を増進
- ・ 大学、高校と協働し外来雑草の調査・防止対策

- さらに、特産物の開発など、地域住民の繋がりを都市住民との交流を深めていく計画。





シバザクラを活用した棚田法面の保安全管理の省力化と地域の活性化

こうどう しゅうなんし
向道環境保全会（山口県周南市）

- 本地域は、山口県中部に位置し、山々に囲まれた標高約400mの中山間地域であり、4集落が里山、棚田を保全している。
- 棚田の保全作業は、高齢者に負担が大きいことから、平成19年から農地・水・環境保全対策を活用し、地域の共同活動として取り組んでいる。特に、重労働である棚田法面の草刈作業を省力化するため、マルチ被覆とシバザクラを組み合わせた法面被覆を実施。棚田の法面約1haに、10万本のシバザクラを植栽。
- 今では、地域の憩いと癒しの場となり、毎年開花時期には県内外から5万人の観光客が訪れ、都市住民との交流の場となっている。

【地区概要】

- ・取組面積 20ha（田19.6ha、畑0.5ha）
- ・資源量 開水路11.9km、農道4.0km
ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、周南市向道土地改良区、
自治会
- ・交付金 約2百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 棚田の法面は、高いところで9mもあり、急な傾斜面での約1haの草刈りは高齢者にとって危険かつ重労働。
- このため、平成19年から農地・水・環境保全対策を活用し、地域の共同活動で棚田の法面の草刈りなど棚田の保全活動を実施。
- 棚田の法面の草刈り作業を軽減するため、平成20年から3年計画で、シバザクラの植栽を実施。



棚田法面のシバザクラ植栽

取組内容

- シバザクラの植栽は、作業に多くの時間と労力を要することから、都市部からのボランティアを募って実施。
- シバザクラ植栽のデザインは、市内にあるデザイン専門学校の学生たちがアイデアを結集して考案。若者たちの発想を受け入れて、更なる活性化と飛躍につなげている。
(市内の八代盆地にシベリアから飛来するナベヅル(国の天然記念物)をモチーフにデザイン)
- 棚田の約1haの法面に、10万本のシバザクラを植栽。



植栽デザイン選考会



ナベヅルをモチーフにしたデザイン

取組の効果

- 法面の植栽により、草刈り等、維持管理労力が低減。
- 少子高齢化が進む山あいの187世帯、人口約400人、高齢化率51%の集落に、シバザクラ開花時期は、毎年多くの観光客で賑わっている。
〔 観光客数 H23 約2万人 → H28 約5万人 〕
- 本取組を契機に、地元の主婦12名による農産物加工グループ「大道理ほたる工房」も設立され、地域振興が図られている。



美しい棚田に10万本のシバザクラが咲きほころ



直営施工による農道、水路の補修

さなだ よしかちょう
真田地区資源保全組合（島根県吉賀町）

- 本地区は、国土交通省の水質調査で全国一となった高津川の右岸の平坦な農地を対象に活動を展開。
- 地区内の農道及び水路は、老朽化が進行し、通行障害や漏水等が発生している状況。このため、施設の補修等に当たっては、緊急性の高い箇所を優先するなど計画的に実施。
- 直営施工に取り組むことによって、地域の問題は自分たちで解決することができることを実感。

【地区概要】

- ・取組面積 42ha（田34ha、畑8ha）
- ・資源量 開水路16.5km、農道8.1km
- ・主な構成員
農業者、自治会、青年会、壮年会
- ・交付金 約3百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

地域の現状



清流に恵まれた土地



改修してから20年程度だが、地盤が悪いため、水路底と側壁の隙間が生じ漏水が発生している。



狭く未舗装の農道と老朽化によって壊れている石積水路

直営施工の実施



廃アスファルトで農道舗装。



70才以上の石積経験がある人を中心に水路を改修。今後は、こうした技術を若い世代に伝承することとしている。



地域協議会の技術研修会で紹介された、ガラス繊維モルタルでの補修を実施。漏水がなくなる。

活動の効果

- ・直営施工により、地域の構成員がもつ技能を活用し、水路・農道など施設の長寿命化を図ることができた。



完成した練り石積